

電源立地地域温排水対策事業調査—抄録—

白 取 尚 実・*田 村 亘

発 表 誌 名

平成3年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地点）・平成4年3月青森県

抄 録

1. 漁獲実態調査

- (1) 白糠・小田野沢地区においては小型定置網、刺網、釣、イカ釣、棒受網、延縄の6漁業種類が営まれ、なかでも小型定置網によるサケとイカ釣によるスルメイカが漁獲量、漁獲金額ともに大きな割合を占め、当該地区における重要魚種となっている。
- (2) サケ、スルメイカを除く他魚種中で比較的漁獲量、漁獲金額の大きなものはヒラメ、イシガレイ、マコガレイ、ソイ類、アイナメ等いずれも底魚類であり、釣、刺網、小型定置網等により、それぞれ漁獲期のピークに差があるものの周年にわたって漁獲されている。また近年活魚の取り扱いが増え、漁獲金額の向上につながっている。

2. 標 本 船 調 査

- (1) 刺網漁業は6～10月までヒラメ、イシガレイを対象として水深5～40m位の漁場で操業を行なう。その後11、12月はサケ等を漁獲している。
- (2) 釣漁業は6～7月までは一本釣でヒラメを対象とし、8、9月は一本釣、イカ釣の両方を漁模様を見ながら行ない、10月以降はイカ釣のみとなる。おもな漁場は共同漁業権外の水深120～200m位の所である。

3. 生 態 調 査

① マ コ ガ レ イ

測定尾数19尾。胃内容物はアミ類、二枚貝、多毛類であった。性別は雌の割合が多く全長30cmを越える個体は全て雌であった。

② イ シ ガ レ イ

測定尾数135尾。胃内容物はイカナゴ稚魚、二枚貝、アミ類で、生殖腺も全て未熟であった。雌雄比の割合はやはり雌が多く、特に全長20cm以上になると大型魚になればなるほど雌の割合が高かった。

③ ヒ ラ メ

測定尾数は123尾。胃内容物は殆ど魚類（イカナゴ、カタクチイワシ、アジなど）であった。また上記2種同様全長が大きくなるにつれ、雌の割合が高かった。

* 現在青森県鯉ヶ沢地方水産業改良普及所勤務